

たちねぶた
「桃太郎電鉄」の立佞武多山車が完成
青森県五所川原市の夏祭りに登場
8月4日(金)～8月8日(火)、19時より毎日運行

初日は高橋名人が運行に参加
最新作「桃太郎電鉄 16」のオープニングシーンにも使用

株式会社ハドソン（本社/東京都中央区、代表取締役社長／遠藤英俊）は、2006年4月下旬より、青森県五所川原市の協力を得て、人気ゲームソフト「桃太郎電鉄」の登場キャラクターを題材にした立佞武多（たちねぶた）を制作していましたが、この度、山車が完成し、来る8月4日（金）～8日（火）に行われる「五所川原立佞武多」で披露・運行することになりました。

「桃太郎電鉄」シリーズのキャラクターデザインを手がける土居孝幸氏によるイメージイラストを元に、五所川原市の「立佞武多の館」で制作された山車は、桃太郎やキングボンビー、お供の犬、猿などのゲームキャラクターを題材にしており、運行初日の8月4日（金）には、お祭りの先陣を切って「桃太郎電鉄 立佞武多」が登場、当社の高橋名人も、地元の子どもたちと一緒に五所川原市内を練り歩く予定です。

また、「桃太郎電鉄 立佞武多」の運行を含めた祭りの模様は、当社が今冬に発売を予定しているシリーズ最新作「桃太郎電鉄 16 北海道大移動の巻！」（プレイステーション 2用）のオープニング映像として収録される予定です。



完成した「桃太郎電鉄 立佞武多」

■「桃太郎電鉄 立佞武多」について

高さ約8メートル、幅約2.5メートルで、台座の上に「桃太郎電鉄」シリーズの主要登場キャラクターである桃太郎、キングボンビー、犬、猿の人形ねぶた（燈籠）が載っている。同シリーズのゲーム監督であるさくまあきら氏が、ゲームの取材で青森県を訪問した際、五所川原市の立佞武多の迫力に圧倒されたことが今回の山車制作のきっかけとなった。

これ以外にも「桃太郎電鉄」と青森県の関わりは深く、当社が提供しているiモード®用サイト「桃太郎電鉄」<月額情報料300円（税込315円）>内の「桃鉄物産館」コーナーでは、本年7月より青森県の特産物を販売中。

■青森県五所川原市の「五所川原立佞武多」について

明治中期から大正初期に行われていた五所川原市の伝統的なお祭り。高さ約21メートルのものが町内を練り歩いたとされるが、電気の普及により市内に電線が張り巡らされると、運行に支障が生じるようになり小型化（高さ約4.5メートル）。1996年、市内の有志により高さ20メートル強のねぶたが復元され「立佞武多」と命名された。その後、駅前からの運行コース上の電線を地中に埋めるなど、「立佞武多プロジェクト」が進められ、1998年8月、約90年ぶりに復元された高さ約22メートル、総重

量約 17 トン、7 階建てのビルに匹敵する立佞武多の山車が市内を練り歩き観光客を魅了。その後、五所川原市の夏祭りとして定着している。



写真左：「桃太郎電鉄 立佞武多」のイメージイラスト

写真右：「桃太郎電鉄 立佞武多」の制作過程。骨組みが組まれた後に紙を張り、色付けしていく。桃太郎の目入れ作業は、キャラクターデザインの土居孝幸氏（下の写真左側）も手伝って完成。



※「iモード」はNTTドコモの登録商標です。